

日本物理学会 男女共同参画推進委員会 活動報告

Recent activities of Gender Equality Promotion Committee, The Physical Society of Japan

野尻美保子^{1,2}, 遠山貴巳^{1,3}, 佐野幸恵^{1,4}, 糸井充穂^{1,5}, 曹基哲^{1,6}, 福島孝治^{1,7},

¹日本物理学会, ²高エネルギー加速器研究機構, ³東京理科大学理学部, ⁴筑波大学システム情報系,

⁵日本大学医学部, ⁶お茶の水女子大学理学部, ⁷東京大学大学院総合文化研究科 sano@sk.tsukuba.ac.jp

◆日本物理学会の男女共同参画推進委員会◆

日本物理学会（JPS）の女性研究者比率は、30年前の2%から、2015年は5.8%に上昇した。女子学生比率も微増している。しかし、理工系が目標とする30%にはほど遠い。女性・男性研究者が共に活躍し、多様な人材が物理学が発展に寄与するよう2002年に発足した男女共同参画推進委員会では、委員会構成は女性委員・男性委員を半数ずつで活動を行なっている。以下では最近の主な活動を報告する。

◆基本方針◆

①女性研究者の研究・教育環境を改善する事、②次世代の女性研究者を育成する事を指針に、国内外の機関と連携して活動を行う。

◆活動報告◆

【1】次世代教育

2005年より「女子中高生夏の学校（夏学）」を支援している。夏学は、毎年100名程度の全国の女子中高生が参加する、国内最大級の女子学生向け理系進路選択支援事業として、これまで発展してきた。

2018年は、8月9日から8月11までの3日間、全国から117名の女子中高生、26名の大学生・大学院生スタッフ、理系分野の学協会、大学、高校および企業から200名以上が実行委員やプログラムスタッフとして参加した。キャリア講演や、理系の職業に就くことの意義や価値をグループで共に考える学生企画の他、グループに分かれて、実験・実習講座を行った。



夏学2018の集合写真

【2】秋季・年次大会での託児室の開設

JPSでは、毎年2回、春と秋に全国規模の学術講演会を開催している。どちらの大会においても合計約5,000名の研究者が参加し、3,600件におよぶ講演と活発な討論が行なわれる。大会には、託児室が設置され、事前に申し込みは、誰でも利用できる。託児室はこれまで、有志によって運営されてきたが、本年度より本委員会が主体となって運営に携わっている。託児室の終了後は、利用者に運営向上のためのアンケートを実施し、その内容を委員内で共有することで、より一層の利便性の向上を目指している。

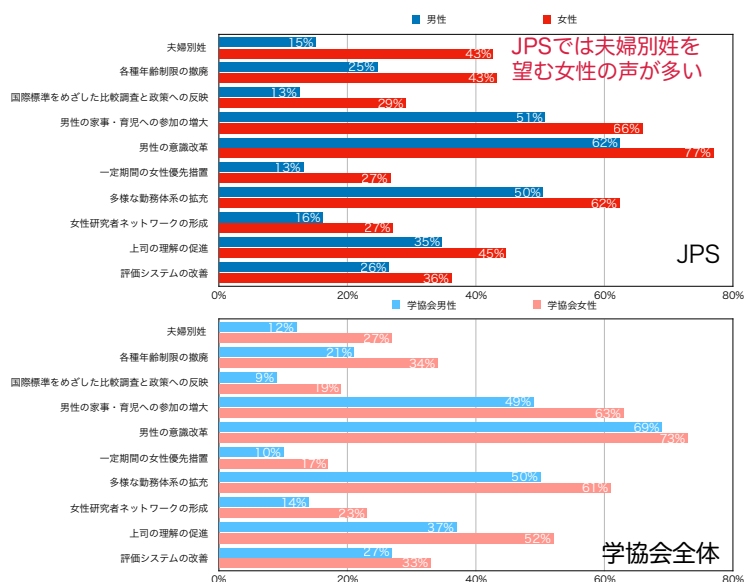
【3】年次大会でのシンポジウム開催

2018年3月に行われた、日本物理学会 第73回年次大会にて、男女共同参画推進委員会主催のインフォーマルミーティングを行なった。今回からの新しい取り組みとして、昼食提供型のミーティングとして行うことで、より幅広い層への啓発に取り組んだ。参加者は男性が14名、女性が17名であり、年代も10代から50代までと多岐に及んだ。2019年3月の年次大会でも、同様の企画を予定しており、継続して行なっていくことで、JPSに男女共同参画活動を定着させていきたいと考えている。

【4】学協会連絡会活動

JPSは、学協会連絡会運営委員会、大規模アンケート解析WG、シンポジウムに参加するとともに、大規模アンケートデータベースから物理学会の情報を抽出した分析を行った。分析結果は日本物理学会誌7月号に「物理学会における無意識のバイアス問題(大規模アンケート調査から)」（日本物理学会誌 vol. 73 no. 7 pp. 512-515 (2018)) として掲載されている。JPSは、これから第17期学協会連絡会の幹事学会として、必要な活動を行っていく。

今後必要と思われること



「第四回 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」男女共同参画学協会連絡会（2017）より抜粋

図. 「男女共同参画社会の推進のために今後必要と思われること(Q41 複数回答)」をJPSにおける、男女回答率の差の降順で10位を示した。上段はJPSの結果、下段は学協会全体での結果。

【5】広報活動

物理学会誌とHP(<http://danjo.jps.or.jp/>)に委員会報告やイベントごとに活動報告を掲載している。最近では、2018年5月号に会員登録情報の調査、7月号には連絡会の大規模アンケート調査結果を報告した。